令和２年度 学　校　評　価　【　計　画　書　・　報　告　書　】

加賀市立三木小学校　校長　青木　康人　印

学校教育ビジョン
○ 学校教育目標　確かな学力を身につけ，心豊かでたくましく，郷土を愛する三木の子の育成　～ 一人一人の存在が大切にされ，あたたかい人間関係が築かれる学校 ～
○ めざす児童像　進んで学ぶ子　心豊かな子　たくましい子
○ めざす教師像　児童や保護者に信頼される教師　危機管理意識の高い教師　お互いを認め，高め合う教師
○ 基本方針
（1）自分のめあてを明確にし，進んで学ぶ子を育てる
（2）感謝や思いやりの心をもち，心豊かな子を育てる
（3）健康や体力の向上に努め，たくましい子を育てる
（4）保護者，地域と連携し，信頼される学校づくりに努める
（5）使命感・責任感をもち，教育への情熱を絶やさない教師力の向上を図る
（6）教職員のメンタルヘルスの増進に努め，業務改善を推進する

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	学力向上1校1プランに「話す力」「聴く力」の向上を位置づけて共通実践し，目的や状況，相手に応じた「話す力」「聴く力」を高める。	めざす児童像を共有し，「話し方・聴き方ステップ表」を活用しながら，学習活動の中で，「話す力」「聴く力」の向上を図る。	学力向上部 教務主任	落ち着いた態度で授業に参加し，自分の考えを発言することはできる。しかし，簡潔にわかりやすく説明したり，考えを比べながら聴いたりする力は十分とはいえない。	【成果指標】 学力向上1校1プランの取組を共通実践し，学年に応じた児童の「話す力」「聴く力」が向上したか。	「話す力」「聴く力」に関する各学年のめざす姿が達成できたと答える児童・教員が A：9割以上　B：8割以上 C：7割以上　D：7割未満	児童ｱﾝｹｰﾄと教員ｱﾝｹｰﾄにより，7月と12月に評価する。	C	C	話の中心に気をつけて聴くことは向上してきた。しかし聞き手を意識して話したり，友達の意見をよりよくする発言をしたりする力は，教師からみて不十分である。今後は相手意識をもって分かりやすく話すための指導を継続していく。
	目標達成を意識した授業づくりに努める。	体育科を中心にペアやグループでの話し合い活動，ICTなどを活用し，学習の理解が深められるようにする。また，学びの自覚につながるふり返り活動を工夫する。	学力向上部 研究主任	授業の中で，課題の確認，適用題やふり返りの時間を確保しているが，学びの深まりや次時へのつながりはやや弱い。	【成果指標】 めざす児童像を共有し，話し合いやICT活用などの学習活動を通して学んだことを，自覚化することができたか。	学びを自覚し，自分の言葉でまとめたりふり返ったりできたと答える児童が A：9割以上　B：8割以上 C：7割以上　D：7割未満	児童ｱﾝｹｰﾄにより，7月と12月に評価する。	A	A	学習や集会・児童会活動などのさまざまな場面で，自分の言葉で学びをふり返ることができた。しかし，振り返りの質は十分であるとは言えないため，振り返りの内容の指導やよいふり返りの価値づけを今度も継続していく。
②生徒指導	様々な活動の中で，自分や友達のよさを認め合い，居心地のよい学級，学校を目指す。	上級生は下級生への配慮やお世話をしたり，下級生は上級生のお手本となる態度を見習ったりする，温かく思いやりのある心を育てるため，全校一斉遊びの日などの縦割り活動を実施する。	学習環境部 生徒指導主事	児童の様子を見ていると，少しずつではあるが，お互いにやさしく接する児童が見られるようになってきた。しかし，形式的な態度をとる児童もおり，思いやりの気持ちをもって接している児童は，まだ多いとは言えない。	【成果指標】 縦割り活動において，友達に思いやりのある態度を示すことができる児童を育成することができたか。	縦割り活動において「友達から思いやりのある態度を受けた」と感じた児童が A:9割以上　B:8割以上 C:7割以上　D:7割未満	児童ｱﾝｹｰﾄにより，7月と12月に評価する。	A	A	友達から思いやりのある態度を受けたと感じた児童は，「そう思う」が69%，「どちらかというとそう思う」が31%であった。今後は，「どちらかというとそう思う」の児童を「そう思う」にするために，縦割り活動を増やすなどの工夫を行っていく。
いじめの未然防止	いじめを見逃さない・風通しのよい学校づくりを推進する。	毎月の児童理解の会や年3回のいじめｱﾝｹｰﾄ，問題行動等記録ｼｰﾄ，いじめ未然ﾁｪｯｸﾘｽﾄを中心に，職員全体で子どもの発する小さなサインを見逃さない体制を充実させ，組織的に対応する。		以前から継続して取組んでいるいじめ案件を中心に，児童理解の会を開いて解決を図ったり，いじめアンケートを継続して実施したりしてきた。また，これまでの情報共有も図ってきたが，まだ解決に至らない案件がある。	【成果指標】 ｱﾝｹｰﾄや面談，問題行動等記録ｼｰﾄ，いじめ未然チェックリスト等を通じて，SCやSSW，保護者と連携し，迅速で適切な対応ができたか。	シートやチェックリスト等を活用して積極的にいじめを認知し，迅速で適切な対応ができた教職員が A:全教職員　B:8割以上 C:7割以上　D:7割未満	教職員ｱﾝｹｰﾄにより，7月と12月に評価する。	A	A	できたと回答する教職員が100%であった。今後は，いじめの未然防止に向けて，児童一人一人の特性の把握と個人に合ったきめ細かな支援・指導を行っていく。
③キャリア教育・進路指導	身近な人達と関わり，自分ができることを考え，目標達成に向けて取り組むことで，やり遂げた満足感を味わい，自己有用感を高める。	学校や学級のために考え，取組む場面において，児童全員が活躍できる場を設ける。できるようになったことや努力したことに対して，キャリアパスポートを作成し価値づける。	学力向上部 教務主任	学校行事や学級づくりにおいて，自ら進んで考え，取組もうとしているが，まだまだ自己肯定感が高いとは言えない。	【成果指標】 様々な役割の関係や価値を自ら判断し，やり遂げた満足感を児童は味わうことができたか。	自分の成長に対する気づきを深め，自己肯定感が高まった児童が A：9割以上　B：8割以上 C：7割以上　D：7割未満	児童ｱﾝｹｰﾄにより，7月と12月に評価する。	B	B	学校や学級をよりよくするために，進んで取り組み役割を果たして自己肯定感が高まった児童が増えている。今後も子どもたちの良さを認めて褒め，自己肯定感をさらに伸ばしていく。
④保健管理	運動を推奨し，体力の向上に努める。	朝の会のﾏｯｽﾙﾀｲﾑや長休みのﾊﾟﾜｰｱｯﾌﾟﾀｲﾑ，体育授業等を使って筋力の向上に努める。	学習環境部 体育担当	筋力アップに取り組んではいるが，県や全国平均と比較すると，筋力が弱いという結果になっている。	【成果指標】 握力と投力の各学年平均が昨年度の県平均を上回る児童を育成することができたか。	昨年度の県平均を上回る児童が A：8割以上　B：7割以上 C：6割以上　D：6割未満	5月と10月の体力ﾃｽﾄの結果より評価する。	D	B	昨年度の県平均を上回る児童は，6月の59%から10月は72%に向上した。鉄棒で技に挑戦する児童が増えて握力や投力が伸びた。今後は他の筋力も鍛えるようなパワーアップ体操等を工夫していく。
	基本的生活習慣づくりを通して，健康な心身の保持・増進に努める。	保健指導や児童委員会の活動を通じて，早寝早起き・メディアコントロールの取組を行う。長期休業中も家庭と連携し基本的生活習慣の定着を図る。	学習環境部 養護教諭	朝食の栄養バランスや歯みがきについては改善されてきているが，長期休業中の生活習慣（早寝早起き・メディアコントロール）に関して課題がみられる。	【成果指標】 各自で設定する早寝早起き・メディアコントロールの目標を達成できたか。	自分の目標を達成できた児童が A:9割以上　B:8割以上 C:7割以上　D:7割未満	夏休み・冬休みぐんぐんカードより評価する。	C	C	ぐんぐんカード全体の達成率は77%であった。特に，冬休みの就寝時刻の達成率が69%と低い。今後は，保健だよりや日常的な声掛け，委員会の取組を通して，メディアコントロールと睡眠の関係を中心とした生活リズムの向上を図っていく。
⑤安全管理	災害や不審者等に対する児童や教職員の対応実践力を高める。	警察署と連携した「防犯教室」，消防署と連携した「火災や地震・津波・浸水想定避難訓練」，保護者と連携した「児童引き渡し訓練」を実施し，緊急時の対応についての実践力向上を図る。	総務部 教頭	避難訓練等を計画的に実施し，児童の危機への対応能力を高めているが，継続して実施し，さらに危機に対応する能力を育てる必要がある。	【成果指標】 様々な状況に対して，職員や児童が適正かつ安全な避難行動ができたか。	安全確保のために具体的な場面を想定して対応ができたと考える教職員が A:9割以上　B:8割以上 C:7割以上　D:7割未満	教職員ｱﾝｹｰﾄにより，各避難訓練時に評価する。	A	A	避難訓練（火災，地震・津波，浸水）・ｼｪｲｸｱｳﾄ訓練・不審者対応訓練を実施して具体的な避難行動や安全で正しい判断力を身につける取組を行い，安全確保のための組織的な対応ができた。今後も継続して危機に対応する能力を高めていく。
⑥特別支援教育	発達段階や特性に応じた適切な指導を行うとともに，それらを個性として互いに認め合う雰囲気づくりに努める。	支援の必要な児童について共通理解を図り，適切な支援をする。また，道徳の授業や人権週間など様々な機会をとらえ，互いを認め合うことの大切さを指導していく。	学力向上部 特別支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	支援の必要な児童について全職員が共通理解し，支援を行っている。しかし，児童が自分と異なる意見や立場を十分に尊重し合っているとはいえない。	【成果指標】 児童が，道徳の授業や人権週間等で，自分と異なる意見や立場を十分に尊重し，互いを認め合うことができたか。	道徳の授業や人権週間等で互いを認め合うことができたという児童が， A：9割以上　B：8割以上 C：7割以上　D：7割未満	児童ｱﾝｹｰﾄにより，7月と12月に評価する。	A	A	授業や児童会活動の中では，互いを思いやり認め合う姿がよくみられる。中間評価より児童の自己評価も向上している。どんな場面でも互いを認め合う行動ができるように今後も機会をとらえて指導を継続していく。
⑦組織運営	各教職員が校務に責任を持ち，組織的に協働して学校目標の具現化に努める。	定期的に運営委員会や必要に応じて分掌部会を設け，組織的に協働して学校運営を図る。	総務部 教頭	少人数だからこそ組織的・協働的な体制を整え，運営委員会や分掌部会を計画的に開催して共通理解・共通実践することが必要である。	【成果指標】 運営委員会・分掌部会を活用し，組織的な取組が行えたか。	各分掌からの取組について，共通理解・共通行動できた教職員が A:9割以上　B:8割以上 C:7割以上　D:7割未満	教職員ｱﾝｹｰﾄにより，7月と12月に評価する。	A	A	各部で意思疎通を図り，運営委員会で調整することで，共通理解・共通行動を行うことができた。学力向上ロードマップを活用しながら，今後も各部の取組がより効果的な実践になるように努めていく。
業務改善	教職員の業務の効率化や平準化を図り，校内における働き方改革を推進する。	日課の工夫，ICT活用，「TODOリスト（軽重をつけて）」の習慣化，月2回の定時退校日の設定等により，教職員の勤務時間短縮のための意識・スキルを高める。		各教職員の担当する校務分掌が多岐にわたるため，業務の効率化・平準化を行うことで時間外勤務を減らすことが必要である。	【成果指数】 計画的・効率的な業務遂行に努めることで，毎月の時間外勤務が80時間を超えなかったか。	毎月の時間外勤務の合計が，平均で80時間を超えない教職員の割合が A:9割以上　B:8割以上 C:7割以上　D:7割未満	毎月の勤務時間記録より，9月と2月に評価する。	A	A	毎月の時間外勤務の平均が80時間を超えない教職員は100%であった。今後も協力体制や分業の見直しを推進して業務の平準化を図るとともに，ICT活用による業務軽減にも取り組んで時間外勤務の削減に努めていく。
⑧研修	校内研修の充実を図り，授業改善や指導力向上に努める。	体育科の器械運動領域，特に鉄棒の指導についての授業研究を通して，授業改善に取り組む。若プロ研修を計画し，組織的に取り組む。	学力向上部 研究主任 教頭	器械運動領域のマット運動，跳び箱運動を中心に授業研究を行ってきた。これまでの取組や課題を生かし，今年度の研修を充実させるとよい。	【成果指標】 研究授業や校内研修を通じて，また，外部人材を活用して指導力向上が図られたか。	校内研修，授業研究において成果があったと感じる教職員が A:9割以上　B:8割以上 C:7割以上　D:7割未満	教職員ｱﾝｹｰﾄにより，7月と12月に評価する。	A	A	鉄棒運動を中心に授業改善を行い，意欲的に取り組む児童の姿がみられ，技能面も向上している。昨年度の課題であったICT活用も，実践の中に取り入れることができた。今後も効果的なICT活用を推進して授業改善に努めていく。
⑨保護者，地域との連携	日常の教育活動の開示や学校評価を通して，学校への信頼向上に努める。	学校と保護者，町づくり推進協議会とが連携し，教育活動や環境整備の向上を図る。	総務部 教頭	学校の教育活動への協力を惜しまない地域の方が多く，地域と共に行う行事も続いている。	【満足度指標】 保護者や地域の人が様々な教育活動を理解し，満足しているか。	家庭や地域と連携を図って教育活動を行っていると感じた保護者が A:9割以上　B:8割以上 C:7割以上　D:7割未満	保護者ｱﾝｹｰﾄにより，7月と12月に評価する。	A	A	97%の保護者が肯定的な意見である。保護者数の減少や社会情勢の変化に対応しながら，保護者の要望を考慮し，保護者・地域と職員が連携して教育活動を推進していく。
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備・環境美化に努め，安全で教育効果を高める教育環境の充実を図る。	日常的に安全点検・備品管理に努め，施設・設備・備品等の適切な整備を行う。	総務部 教頭 事務	安全点検を通して職員は安全な学習環境整備に努める意識が高い。不備な箇所は速やかな回復措置に努めているが，校舎の老朽化に伴い，日常的に修繕が必要である。	【成果指標】 管理場所の担当者が安全確保と環境整備に努め，常に学習・生活環境が整備されているか。	安全確保・環境整備が整っていると感じた教職員が A:9割以上　B:8割以上 C:7割以上　D:7割未満	教職員ｱﾝｹｰﾄにより，7月と12月に評価する。	A	A	定期的な安全点検によって，危険個所の早期発見と迅速な対応を心がけ，今後も安全な学習環境作りに努めていく。

学校関係者評価	・ネット動画，コンピュータゲーム等の長時間視聴や児童生徒のスマートフォン使用は，生活習慣の乱れや非行被害につながる心配がある。これは，加賀市全体の問題でもある。学校では今年度のように児童への指導や保護者への啓発を継続してほしい。特に大人の意識改革が重要である。 ・来年度の統廃合に向けて，児童が安心して錦城小学校に通えるようにスクールバスの運用をしっかりと考えてほしい。